

令和2年度第2回 新潟市子ども・子育て会議 会議概要

開催日時	令和3年2月16日（火）午後1時30分～3時10分
会 場	白山会館 2階 「胡蝶」
出席委員	市嶋委員、植木委員、川村委員、小池委員、児玉委員、小林委員、斎藤委員、佐藤委員、椎谷委員、志賀委員、関川委員、長谷川（豊）委員、平沢委員、平田委員、三浦委員、山岸委員（出席16名、欠席3名）
事務局 関係課 出席者	こども未来部長、こども政策課長ほか同課より4名、こども家庭課長ほか同課より4名、保育課課長ほか同課より5名、児童相談所副所長、地域教育推進課課長、学校支援課長
傍聴者	1名
内 容 発言者	<p>【報告】</p> <p>（1）新型コロナウイルス感染拡大に伴い生じた対応及び業務について</p> <p>○事務局より対応及び行内容について説明を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p>
植木委員	<p>・資料1に「放課後等デイサービス」に関する記載がないが、何か措置はとっているか。</p> <p>→「放課後等デイサービス」は障がい福祉課の担当事業だが、資料1はこども未来部が行った対応についてのみを記載したものになっているので、資料への記載はない。</p> <p>ただ、新型コロナウイルス対策として、小学校が休校になった際に放課後等デイサービスを朝から実施したと聞いている。詳細については、障害福祉課に確認後改めてお伝えする。</p>
植木委員	<p>・関連する内容であれば、担当部局以外のものでも可能な限り報告してほしい。</p> <p>→次回以降、関連する事業については可能な限り説明させていただく。</p>
川村委員	<p>・資料1「小学校休校中にファミリー・サポート・センター事業を利用した際の利用料補助」について、実績はどうなっているか。</p> <p>→令和2年度は5月の休校期間中に2件の利用実績があり補助を行っている。</p>

<p>植木委員</p>	<p>(2) 子どもの貧困対策庁内検討会議実施報告</p> <p>○事務局より標記会議について実施報告を行いました。</p> <p>○標記会議の内容に関連して、三浦委員より母子福祉連合会実施の「ひとり親家庭支援事業アンケート」の結果についてご説明いただきました。</p> <p>○委員からはお主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2の子どもの貧困対策に対する各課の課題等について、2「主な意見」を受けてどのように対応していくのか。 <p>→本会議は11月に実施しており、その後、実際に対応に至ったものもある。上から順に説明すると、福祉総務課の課題については相談員の増員に向けて現在検討が進められている。こども政策課のこども食堂への補助については現在実施中。こども家庭課の給付事業についても実施済み。健康増進課の歯科健診等についても追加実施していると聞いている。また、各区の健康福祉課や保護課等のその後の対応については、学習支援等の支援を継続して実施していると聞いている。</p>
<p>平澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の2「主な意見」で東区健康福祉課から出ている「子ども食堂」という名称のせいで行きにくいと感じるという意見について、同じような意見をよく聞く。実際に名称を変更したところ、参加者が増えたという事例も聞いたことがあるので、今後の取り組みについてぜひ検討してもらいたい。 <p>→子ども食堂の名称については、そのような意見があるということを経前から聞いていた。</p> <p>今年度、新たに子ども食堂を開設したいとご相談をいただいた際には、名称について、このような意見もあるということでお話ししている。</p>
<p>山岸委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2の2「主な意見」で中央区健康福祉課から出ている、本当に支援が必要な子どもをどうケアするかが課題、という意見について、本当の貧困家庭にうまく支援が届いているのかという課題があると地域でも耳にする。 <p>先日、新発田モデルというものをテレビで見た。新発田市では教育委員会と連携しながら、本当に支援が必要な人に就学の際などにアプローチすることでうまく活動ができていると聞いている。そういった行政側の情報提供といった協力があると、本当に支援が必要な方に対してより支援が届きやすくなるのではないか。</p> <p>→この課題に対しては、今後どのような情報提供ができるか検討していきたい。</p>

<p>小林委員</p> <p>椎谷委員</p> <p>関川委員</p>	<p>(3) 令和3年度子ども未来部の主な取り組みについて</p> <p>○事務局より令和3年度の子ども未来部予算案について報告を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <p>・資料3の⑩保育士確保対策について、市内保育士養成施設卒業生の県外流出が課題とあるが、これは新潟市に限った問題なのか。</p> <p>→新潟市に限らず県内の保育士養成施設卒業生の県外流出は増加傾向にある。今年度に限っては、新型コロナウイルスの影響で幾分下がってはいるが、市内・県内においても保育士確保については厳しい状況。</p> <p>ぜひ、市内・県内にとどまって働いてもらいたいということで、新たな対策を始めることとした。</p> <p>・資料3の①若者へのライフデザイン啓発について、この内容に関して子育てと仕事の両立や、どのような子育て支援・サービスがあるのかということについても触れてもらえるとよい。</p> <p>子育てに対してマイナスのイメージを持っている人が多く、そのイメージが将来的な出産に影響してくる可能性もあるので、正しい知識をつけてもらいたい。</p> <p>また、実際に子どもを産んだお母さんからももっと早く支援等について知りたかったという話も聞く。</p> <p>→この事業は助産師会とも連携しながら取組を進めている。命の大切さについて話したり、保護者が実際に子どもを連れて学校を訪問し学生たちと触れ合ったりするといった取組をしている。子育て支援の大切さや、子育ての大変さや楽しさについて、子どもたちにわかりやすく伝える取組を行っているが、いただいたご意見も参考にしながら、引き続き助産師会と連携して事業を実施していきたい。</p> <p>・資料3の⑩多様な保育サービスの提供について、病児・病後児保育の送迎サービスでタクシーを利用する、となっているが、その際、チャイルドシートを用意する必要はあるのか。</p> <p>→道路交通法において、タクシーにおけるチャイルドシートの着用については免除されているため、基本的に付き添いの保育士または看護師が支えながら乗っていくことを想定している。</p>
-------------------------------------	---

<p>佐藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料3の参考資料「病児・病後児保育送迎サービスの提供について」に関して、事業者の立場から一言申し上げたい。 <p>今回の新型コロナウイルスの影響で、病児保育室の利用者が2割程度となり厳しい経営状況となったため、新潟市では一時的な給付事業を行っている。また、市内で病後児保育を始めたばかりの保育園では、利用者が全くいないという状況にあった。そういった状況を踏まえ、安定した経営を行っていくにはどうしたらいいのかということについて、市と事業者とで議論を進めてきた。</p> <p>これまで、病児保育室に対しては、基本分と利用人数に応じた加算分の助成が行われてきたが、基本分の助成を増やす必要があるのではないかとすることで、新たに送迎サービスを開始するという事になった。</p> <p>また、この送迎サービスについて皆さんに理解してほしいのが、本来、病児保育が本当に子育て支援か、というとそうではないが、仕事で迎えに来られない親御さんがいる日本の現状ではやむを得ない制度であるということ。このサービスは積極的に利用するというものではなく、本当に困ったときに利用してもらおうのがよいと考えている。</p>
<p>佐藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料3の①若者へのライフデザイン啓発について、これはとても重要だと考えている。大学の講義で、高齢出産のリスク等について話をするが、その際に反響があるのが、高齢出産した場合、本来、支援をしてくれるはずの自分の両親も高齢のため支援が得られず、子育てがとても大変になるという話。こういった周りとの関係についても、講義の中に入れて伝えてほしい。 <p>また、高校生で希死念慮（自殺願望、漠然と死を願う状態）を持つ生徒が7%もいる状況にある。こういった状況も踏まえて若者へのライフデザイン啓発を行って欲しい。</p>
<p>斎藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料3の参考資料「病児・病後児保育送迎サービスの提供について」に関して、実際に園で子どもの具合が悪くなった時のことを思いうかべると、よく知っている大人が迎えに来た時の子どもの安心した顔が印象深く残っている。このサービスを利用して、タクシーに乗った知らない大人が迎えに来たとき、子どもたちはどんな思いをするのかという不安がある。 <p>このサービスが乱立した時に、子どもの育ちのためになるのか、子どもの心にどれだけ影響を与えるのかという不安があるので、本当に最後のセーフティーネットだということで、子どもの気持ちに寄り添って実施してもらおうとよい。</p>
<p>斎藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料3の①若者へのライフデザイン啓発について、いい取り組みだと思うが結婚に関していい面の話だけではなく、三浦委員からの報告（ひとり親家庭へのアンケート結果）の際に話のあった、離婚のことについても伝えるなど結婚の様々な面について知ってもらおうと良いのではないかと。

三浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡の取組では、支援者、当事者、未来の当事者というところで高校生・大学生に対してそのような教育を行っている。
山岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3の③多胎児支援事業について、多胎児は望まれることもあるが、中には思いがけず子どもが沢山になるということでマイナスの部分もあると認識している。精神的な部分や健診の助成などはありがたいと感じている。
山岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3の②出会いと結婚の支援について、コミュニティ協議会で婚活イベントを何度か行ったが、地元住民の参加者はほぼなく、イベントを支援した民間団体が全体を執りしきって、補助金もすべてそちらの民間団体が受け取るようになったとき、地域で行ったことの意味は何だったのかと感じた。 地域住民からは、住んでいる地域だからこそ参加しにくい、という話も聞く。今の若い世代は SNS の活用で出会いの形が新しくなっているの、時代に即した形にすると良いのではないかと感じる。 また、この地域で結婚したい、子育てしたいと思ってもらえるような地域にしていくところに力を入れると良いのではないかと感じる。
平田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・核家族化が進む中で、家族で支え合うという感覚が欠けてきているように思う。祖父母がもっと子どもたちの様子をみられる形にしていくのが良いのではないかと感じる。

植木委員	<p>(4) 子ども家庭総合支援拠点設置について</p> <p>○事務局より子ども家庭総合支援拠点設置について報告を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none">・資料4の4新潟市子ども家庭総合支援拠点の概要中の職員配置人員について、小規模A型（南区・西蒲区）において虐待対応専門員の配置はない予定だが、南区や西蒲区でも対応が必要だと考えるがどのように対応するのか。 <p>また、区に設置するということだと思うが、その際、既存の家庭児童相談室との役割分担についてはどうなるのか。</p> <p>→小規模A型において虐待対応専門員の配置がないということについて、業務の中身としては、虐待対応専門員が担う業務も必要となる。子ども家庭総合支援拠点の業務については、要保護児童対策地域協議会の調整機関が担うということになっているため、虐待対応にあたる業務も行うことになっている。最低配置人員を見ると職員の配置がないように見えるが、業務を行わないわけではない。</p> <p>また、家庭児童相談室との役割分担についてだが、別々の業務を行うという事ことではなく、要保護児童対策地域協議会の中に家庭児童相談室が含まれているので、一緒になって業務を行っていくことになる。</p>
------	---